

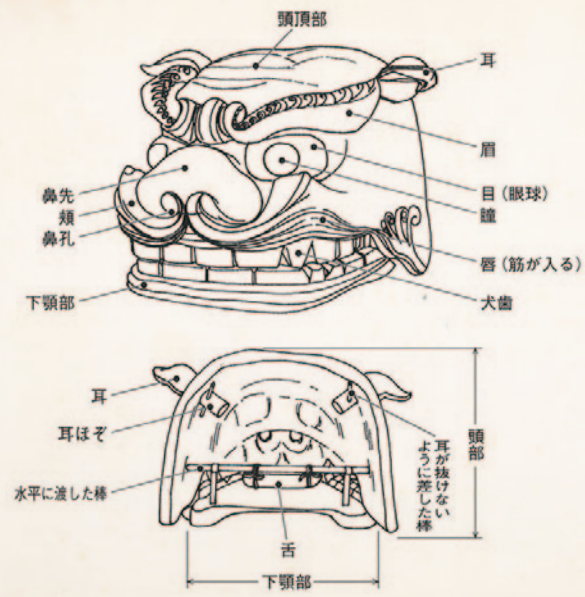
郷土芸能「獅子舞」



獅子舞の様子

勅使地区には現在、六つの町に八つの獅子頭が確認されています。戦後の昭和三〇年代前後を中心に、富山県井波や石川県鶴来から購入されたものが目立ちますが、森町では、地元住民が自ら制作した素朴な形の獅子頭が確認されました。

獅子頭の造形の見どころ



出典：「獅子頭」石川県立歴史博物館発行

①作者名など／②製作年／③所蔵町名／④所蔵神社名

①今井徳浩／②昭和三一年／③三子塚町／④稲荷神社



①刻師 今井幸太郎 塗師 新敷孝一／②昭和二六年／③上野町／④上野神社



①横山典行／②昭和三三年／③森町／④白山神社



①上出平太郎／②明治頃か／③森町／④白山神社



①龍代／②昭和三〇年代中ごろ／③勅使町／④白山神社



①不明／②昭和三〇年代後半／③手谷町／④高宮白山神社



①不明／②平成一二年／③宇谷町／④高宮白山神社



①不明／②昭和二〇～三〇年代／③松山町／④菅原神社



(獅子舞の演舞・所作・特徴等)

町名	現行期日	演舞・所作・特徴等
勅使町	S60.9.15	赤の雌獅子。カヤの中に頭持ち、尾持ち、竹の輪なしで3人入る。寝ている獅子が太鼓の音で目をさまし、舞に入る。最後は家の中へかけ込んで終る。
宇谷町	S60.8.29	赤の雌獅子。カヤの中に頭持ち、尾持ち、竹の輪なしで4人が入る。一人棒(147cm)と薙刀(155cm)の2つの舞がある。昭和10年頃、松山町より習ったと伝え、青年団が行っていたが、近年は小・中学生も参加する。
松山町	—	赤の雌獅子。カヤの中に頭持ち、尾持ち、竹の輪を入れないで3人入る。一人棒(180cm)・合わせ棒・薙刀(175cm)・九寸五分・太刀と棒(97cmの太刀)、太刀・木管・尺八、チキリの舞がある。明治30年頃、寺井町粟生より習い粟生流と呼び加賀市内の6つの町に教えた元祖となっていたが、昭和42年に休止し、同59年復活。
二子塚	S60.8.18	赤の雌獅子。カヤの中に頭持ち、尾持ち、竹の輪なし、尾なしで4人が入る。一人棒(150cm)、薙刀(170cm)、太刀(90cm)の3つの舞がある。青年団が主体だが最近、棒ふりに小・中学生を参加させる。戦後、松山町より習ったと伝える。
上野町	S60.8.16	赤の雌獅子。カヤの中に頭持ち、尾持ちと竹の輪を入れないで4人入る。寝ている獅子が太鼓の音で目をさます。おとなしい舞で河南町と同じ。大正時代、山代新町より習ったと伝える。
森町	S60.8.20	白木の雄獅子。カヤの中に頭持ち、尾持ち(今は使用しない)、竹の輪を入れないで4人が入る。一人棒(153cm)・薙刀(125cm)・太刀(101cm)の3つの舞がある。戦後、松山町より習ったと伝える。青年団の舞に小・中学生も参加するようになった。

出典：『石川県の獅子舞 獅子舞緊急調査報告書』（昭和61年3月、石川県教育委員会発行）